

MIC Worship Service – 2022.10.02

Title: “*Insight Into the Minister’s Life*”

Text: Colossians 1:24~29, NIV

『教会に仕える者、牧師の人生について考える』

聖書箇所:コロサイ人への手紙1:24~29(新改訳)

²⁴ Now I rejoice in what I am suffering for you, and I fill up in my flesh what is still lacking in regard to Christ’s afflictions, for the sake of his body, which is the church. ²⁵ I have become its servant by the commission God gave me to present to you the word of God in its fullness— ²⁶ the mystery that has been kept hidden for ages and generations, but is now disclosed to the Lord’s people. ²⁷ To them God has chosen to make known among the Gentiles the glorious riches of this mystery, which is Christ in you, the hope of glory.

²⁸ He is the one we proclaim, admonishing and teaching everyone with all wisdom, so that we may present everyone fully mature in Christ. ²⁹ To this end I strenuously contend with all the energy Christ so powerfully works in me.

24 ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。25 私は、あなたがたのために神からゆだねられた務めに従って、教会に仕える者となりました。神のことばを余すところなく伝えるためです。26 これは、多くの世代にわたって隠されていて、いま神の聖徒たちに現された奥義なのです。27 神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間であってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。

28 私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。29 このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しなながら奮闘しています。

Introduction

I've been asked several times in my Christian ministry about what a Pastor's work entails. Is it only preaching on Sundays and nothing more? Some even assumed that preachers do nothing throughout the week.

私は、クリスチャンとして教会の牧師という仕事に携わっています。以前、人々に何度か牧師の仕事とはどのようなものかと、聞かれたことがあります。日曜日に説教をするだけで、それ以上の仕事はしていないと思っている人もいます。ある人は、牧師は日曜以外の一週間、何も仕事をしていないと思いついていたようです。

Today, I won't give you a detailed accounting of my workweek. Instead, what we're going to do is to discover Paul's insight into how he viewed his work as a minister of Christ's gospel. And by extension, we can have insight into the life and work of a Christian minister.

今日は、私の一週間の仕事ぶりを詳しく説明するつもりはありませんが、その代わりに、パウロが、キリストの福音を伝える指導者である牧師としての仕事をどのように見ていたかという、彼の考えを見ていきましょう。そして、その延長上として、私たちはキリスト教の牧師の人生と仕事を理解することができるのではないかと思います。

I believe this passage can be of value to both preachers, pastors or ministers and to all believers. In the first instance, it's beneficial for the ministers of the gospel in clarifying how to view themselves and the work they are to perform. On the other hand, it is also beneficial to all Christian believers to give them a better understanding of the minister's life and work, and how to fairly evaluate them. Unwarranted expectations can be avoided and hopefully to evoke some sympathy or understanding.

コロサイ人への手紙にあるこの聖書箇所は、説教者や牧師や聖職者たち、そしてすべての信者にとって有益な教えであると私は信じています。まず、福音を伝える宣教師にとっては、自分自身をどのようにとらえ、どのような仕事を行うべきかを明確にしてくれており、有益な教えが書かれています。一方、この箇所は、すべてのクリスチャン信者にとっても、牧師や指導者達の人生と仕事について理解を深め、私たちが彼らを公平に評価できるように助けてくれます。この

ような洞察は、聖職者に対しての過剰な期待を避けることができるでしょうし、うまくいけば、何らかの共感や理解を呼び起こしてもらえるかもしれません。

Hebrews 13:7 – *Remember your leaders, who spoke the word of God to you. **Consider the outcome of their way of life and imitate their faith.***

へブル人への手紙には、神の指導者たちについて次のように書かれています。

へブル人への手紙 13章7節—7 神のみことばをあなたがたに離した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。

With that in mind, we notice first of all that...

このことを念頭において、指導者である牧師たちについて、まず気がつくことは、次のようなことです。

I. The minister's attitude is one of JOY – verse 24

²⁴ Now ***I rejoice*** in what I am suffering for you, and I fill up in my flesh what is still lacking in regard to Christ's afflictions, for the sake of his body, which is the church.

まず最初に『指導者である牧師は喜びの姿勢を持っている』ということに気がつきます。

I. 指導者である牧師は喜びの姿勢を持っている-24節

24 ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。

The Apostle Paul found **joy** in suffering for the sake of the believers, the body of Christ also known as the Church. And he suffered a lot! He wrote about it in his epistle to the Corinthians.

使徒パウロは、キリストの体とみなされる信徒たち、すなわち教会のために苦しむことに喜びを見出していました。そして、彼は多くの苦しみを味わいました。彼はその苦しみについて、コリントの信徒への手紙の中で次のように書いています。

2 Corinthians 11:23~29 - ²³Are they servants of Christ? (I am out of my mind to talk like this.) I am more. I have **worked much harder, been in prison more frequently, been flogged more severely, and been exposed to death again and again.** ²⁴Five times I received from the Jews the **forty lashes minus one.** ²⁵Three times I was **beaten with rods**, once I was **pelted with stones**, three times I was **shipwrecked**, I spent a night and a day **in the open sea**, ²⁶I have been constantly **on the move**. I have been **in danger** from rivers, **in danger** from bandits, **in danger** from my fellow Jews, **in danger** from Gentiles; **in danger** in the city, **in danger** in the country, **in danger** at sea; and **in danger** from false believers. ²⁷I have **labored and toiled** and have often **gone without sleep**; I have **known hunger and thirst** and have often gone without food; I have **been cold and naked.** ²⁸Besides everything else, I **face daily the pressure of my concern for all the churches.** ²⁹Who is weak, and I do not feel weak? Who is led into sin, and I do not inwardly burn?

コリント人への手紙 第二 11章23-29節—

23 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。24 ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、25 むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。26 幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、27 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。28 このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。29 だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましょうか。

ILLUSTRATION: I wonder what the Apostle Paul would say to contemporary pastors? About what we consider as sufferings? Because according to a recent Barna poll in the U.S., **42% of pastors have seriously thought about quitting ministry in the last year.** That number has risen significantly, jumping from **29% to 42%** in just 18 months. And remember, that doesn't include the pastors who actually quit. According to the survey, pastors cite the following reasons as the main drivers behind their desire to exit:

使徒パウロは、現代の牧師たちに向かって一体、何を言うのでしょうか？パウロは、現代の私たちの苦しみに対して何を思うのでしょうか？最近のアメリカのバーナ社の世論調査によると、牧師の**42%**がこの**1年**間に牧師を辞めようと真剣に考えたことがあるそうです。この数字は、わずか**18ヶ月**の間に**29%**から**42%**へと大幅に上昇しています。しかも、この数字には実際に辞めた牧師は含まれていないことを忘れてはなりません。調査によると、牧師たちは退任を望む主な理由として、次のようなものを挙げています。

1. The immense stress of the job (56%)
2. Feeling lonely and isolated (43%)
3. Current political divisions (38%)
4. Unhappy with the effect this role has had on their family (29%) (tie)
5. Not optimistic about the future of my church (29%) (tie)
6. My vision for the church conflicts with the church's direction (29%) (tie)

[SOURCE: **“Why Many Pastors Are Ready to Quit”**

By Carey Nieuwhof – OUTREACH MAGAZINE, August 11, 2022]

1. 仕事のストレスが計り知れないこと(56%)
2. 孤独感・孤立感(43%)
3. 現在の政治的分裂(38%)
4. 牧師と言う役割が自分の家族に与える影響に不満を感じる(29%) (同点)

5. 自分の教会の将来が楽観視できない (29%) (同数)
 6. 自分自身の教会へのビジョンは、教会の方向性と相反する(29%) (同数)
- [出典『なぜ多くの牧師が辞めようとするのか』
キャリー・ニーウホフ著 - OUTREACH MAGAZINE, August 11, 2022].

In contrast, Paul joyfully suffered for the sake of Christ and for the believers. Very solemnly he declared...

そのような現代の牧師の気持ちに反して、パウロは、キリストのため、信者のために喜びをもって苦しみました。彼は、非常に厳粛に次のように宣言したのです。
ピリピ人への手紙2章をお読みします。

*Philippians 2:17~18 - ¹⁷ But even if I am being poured out like a drink offering on the sacrifice and service coming from your faith, **I am glad and rejoice with all of you.** ¹⁸ So you too should be glad and rejoice with me.*

ピリピ人への手紙 2章17-18節—17 たとい私が、あなたがたの信仰の供え物と礼拝とともに、注ぎの供え物となっても、私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。 18 あなたがたも同じように喜んでください。私といっしょに喜んでください。

Remember, at the very time Paul wrote the epistles to the Colossians and to the Philippians, he was suffering as a prisoner at Rome in service to Christ and to them!

Why was Paul so steadfast in suffering and being joyful at that? We can find at least two (2) possible reasons:

パウロが、コロサイの信徒への手紙とピリピの信徒への手紙を書いたまさにその時、彼はキリストと信徒たちのためにローマで囚人となり苦しんでいたことを思い出してください！パウロは、そのような苦しみの中にあっても、自分の人生に喜びを感じていたのです。

なぜ、パウロは苦しみの中でも、喜びを確固として感じる事ができたのでしょうか。私たちは、少なくとも次の二つの理由を見出すことができます。

1. One reason is given in this passage: ***“I fill up in my flesh what is still lacking in regard to Christ’s afflictions, for the sake of his body, which is the church”*** (v.24).

1. 24節に、一つ目の理由が書かれています。

『私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。』24節

This doesn’t mean that there was anything lacking in the atoning work of Christ on the Cross! (cf. Col. 2:14; He. 10:12,14). In fact, this word ***“afflictions”*** is never used for the suffering of Jesus on the Cross. Many Bible teachers see this as a reference to the *afflictions Jesus endured in ministry*. Therefore, Paul speaks, of those ministerial sufferings which he bears because he represents Jesus Christ.

これは、十字架上のキリストの贖いの業に何か欠けているものがあったということではありません(参照:コリント人2章14節、ヘブル書10章12、14節)。実際、この『苦しみ』という言葉は、十字架上でイエスの苦難に対して使われたことは一度もありません。多くの聖書を教える教師達は、この『苦しみ』という言葉は、イエスが宣教のために耐え忍んだ苦難のことを指していると考えています。ですから、パウロは、自分がイエス・キリストを代表するために背負っている、宣教の苦しみについて語っているのだと言えます。

2. Paul gives the 2nd reason why he suffered joyfully for his brethren: He was acting like a parent to his children in the ministry.

そして、

2. パウロは、なぜ兄弟たちのために喜んで苦しんだのかと言う二つめの理由を述べています。なぜなら、彼は、宣教を施している人々に対して、まるで子供たちに対する親のように振る舞っていたからなのです。そのようなパウロの気持ちが、コリント人への手紙第二に、次のように書かれています。

2 Corinthians 12:14~15 - ¹⁴ *Now I am ready to visit you for the third time, and I will not be a burden to you, because what I want is not your possessions but you. After all, children should not have to save up for their parents, but parents for their children.* ¹⁵ **So I will very gladly spend for you everything I have and expend myself as well.** *If I love you more, will you love me less?*

コリント人への手紙 第二 12章14-15節—14 今、私はあなたがたのところに行こうとして、三度目の用意ができています。しかし、あなたがたに負担はかけません。私が求めているのは、あなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身だからです。子は親のためにたくわえる必要はなく、親が子のためにたくわえるべきです。
15 ですから、私はあなたがたのたましいのためには、大いに喜んで財を費やし、また私自身さえ使い尽くしましょう。私
があなたがたを愛すれば愛するほど、私はいよいよ愛されなくなるのでしょうか。

Children are the parents' "*glory and joy*", and the parents will gladly sacrifice for their children! This is how Paul viewed the believers.

子どもは親の「誉と喜び」であり、親は子どものために喜んで犠牲を払うものです。パウロは信徒たちをそのように見ていたのです。
信徒たちが「誉と喜び」であることが、次の聖書箇所にかかれていしますので、お読みします。

1 Thessalonians 2:19~20 - ¹⁹ *For what is our hope, our joy, or the crown in which we will glory in the presence of our Lord Jesus when he comes? Is it not you?* ²⁰ *Indeed, **you are our glory and joy.***

テサロニケ人への手紙 第一 2章19-20節—19 私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。20 あなたがたこそ私たちの誉れであり、また喜びなのです。

Philippians 4:1 - Therefore, my brothers and sisters, **you whom I love and long for, my joy and crown**, stand firm in the Lord in this way, dear friends!

ピリピ人への手紙 4章1節—1 そういうわけですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。どうか、このように主にあってしっかりと立ってください。私の愛する人たち。

APPLICATION: Paul as a minister exemplified JOY even in sufferings for the sake of Christ and His church. How about us? Are we willing to share in the afflictions of Christ? Are we also willing to suffer gladly for our brethren? Do we consider our brothers and sisters as a source of great glory and joy? Are we willing to joyfully invest time, energy, even "blood, sweat and tears" in serving them?

パウロは指導者として、キリストと教会のために、たとえ苦難の中にあっても、『喜ぶ』のだという模範を示しました。私たちはどうでしょうか？キリストの苦難を喜んで分かち合うことができますか？また、兄弟姉妹のために『苦しみにあっても喜ぶ』ことができるでしょうか？私たちは、兄弟姉妹のことを、大きな誉と喜びの源と考えているでしょうか？私たちは、兄弟姉妹たちに仕えるために、時間やエネルギー、さらには「血と汗と涙」までも喜んで費やすことができるでしょうか？ヨハネの手紙 第一には、兄弟たちのことについて次のように書かれています。

1 John 3:16 - This is how we know what love is: Jesus Christ laid down his life for us. And **we ought to lay down our lives for our brothers and sisters.**

ヨハネの手紙 第一 3章16節—16 キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。

II. The minister's role is one of SERVANTHOOD – verses 25~27

²⁵ ***I have become its servant** by the commission God gave me to present to you the word of God in its fullness— ²⁶ the mystery that has been kept hidden for ages and generations, but is now disclosed to the Lord's people.²⁷ To them God has chosen to make known among the Gentiles the glorious riches of this mystery, which is Christ in you, the hope of glory.*

そして次に、『指導者である牧師の役割は、仕えることである』ということにも気がつきます。

II. 指導者である牧師の役割は、仕えることである - 25節~27節

25 私は、あなたがたのために神からゆだねられた務めに従って、教会に仕える者となりました。神のことばを余すところなく伝えるためです。26 これは、多くの世代にわたって隠されていて、いま神の聖徒たちに現された奥義なのです。27 神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。

The word "**servant**" is *diakonos* in the original Greek, and means "*one who executes the commands of another, especially of a master; an attendant; a minister*". Paul viewed himself as a **servant** and he also introduced other Christian ministers in the same way. For example:

この「仕える者」という言葉は、原語のギリシャ語では*diakonos*/ディアコノスという言葉で、「他(た)の人、特に主人の命令を実行する人、従者、大臣」などを意味します。パウロは自分を仕える者、またはしもべとみなし、他のクリスチャンの聖職者たちについても同じように、仕える者や僕(しもべ)として紹介しています。たとえば、コリント人への手紙 第一では、次のように書かれています。

1 Corinthians 3:5~7 - ⁵ *What, after all, is Apollos? And what is Paul? **Only servants**, through whom you came to believe—as the Lord has assigned to each his task. ⁶ I planted the seed, Apollos watered it, but God has been making it grow. ⁷ So neither the one who plants nor the one who waters is anything, but only God, who makes things grow.*

コリント人への手紙 第一 3章5-7節—5 アポロとは何でしょう。パウロとは何でしょう。あなたがたが信仰に入るために用いられたしもべであって、主がおのおのに授けられたとおりのことをしたのです。6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。7 それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。

Servanthood requires faithful stewardship. He had received a "commission" from God. The original word used is *oikonomian*, the same root word for economy, it means "the management of a household or of household affairs; specifically, the management, oversight, administration, of other's property"..

また、奉仕の心を持つには、忠実であることと、頼まれたことを管理する能力が必要です。パウロは神から「信頼され任されていた」のです。この言葉の原語は*oikonomian*/オイコノミアンという言葉で、「エコノミー」という語源と同じく、「家庭や家事の管理、特に他人の財産の管理、監督、運営」などを意味します。

Paul had been entrusted with the gospel of Jesus Christ! Which is called in this passage a "**mystery**", for it had been "**kept hidden for ages and generations, but is now disclosed to the Lord's people**" (v.26). What is this "**mystery**"? Paul said, it is "**Christ in you, the hope of glory**" (v.27). Paul considered it his duty as a steward to faithfully share that gospel to the nations (among the Gentiles).

パウロは、イエス・キリストの福音を託されていたのです。この福音は、この聖書箇所では「奥義」と呼ばれています。なぜなら、それは「多くの世代にわたって隠されていて、いま神の聖徒たちに現された」(26節)ことだからです。では、この「奥義」とは何でしょうか。それは「あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことである」(27節)と、パウロ

は言っています。パウロは、その福音を忠実に、国々に、そして異邦人の間に伝えることが託された者としての自分の務めであると考えていたのです。

APPLICATION: We are also servants of God entrusted with the gospel message. We must be faithful in sharing them to others. Whether or not we view ourselves this way, it is how GOD views us, and we will be judged by how we have served as stewards (See Matthew 25:14~30).

私たちもまた、福音のメッセージを託された神のしもべなのです。私たちは、福音を他の人々に忠実に伝えなければなりません。私たちが自分自身を、神のしもべとして見ているかどうかは別として、神様は私たちを、「託した者」としてどのように仕えたかということを見て判断されるのです(マタイ書25章14~30節 参照)。

III. The minister's goal is one of MATURITY – verses 28~29

*²⁸ He [Christ] is the one we proclaim, admonishing and teaching everyone with all wisdom, **so that we may present everyone fully mature in Christ.** ²⁹ To this end I strenuously contend with all the energy Christ so powerfully works in me.*

そして最後に、『指導者である牧師の目標は、信徒たちを成人させることである』ということにも気がつきます。

III. 指導者である牧師の目標は、信徒たちを成人させることである-28節~29節

28 私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。29 このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。

Paul was a purposeful man. The focus of his preaching was Christ. He didn't preach himself, or his opinions, or even lots and lots of entertaining stories. He preached Jesus.

パウロは常に目標を持っていました。彼の説教の焦点はキリストでした。パウロは自分自身の話や自分の意見を説いたりしませんでしたし、楽しい話などを説いたりはしませんでした。パウロは、イエスのことだけを説いたのです。

Paul's ministry goal was to ***“present everyone fully mature in Christ”***. He was not out just to preach, just to make converts. He wanted to bring people to maturity in Christ, and not to dependence upon himself. In fact, the aim of this epistle, and, indeed, of all apostolic work is admonishing and teaching every person toward the realization of maturity in Christ. He wanted to make mature disciples, who had become complete in Christ.

パウロの宣教の目標は、「すべての人を、キリストにある成人として立たせる」ことでした。彼は、ただ説教をするためや、ただ人々を回宗させるためだけに働いていたのではありません。彼は、人々をキリストにおいて成人させ、すなわち一人立ちさせて、パウロにいつまでも頼らせないようにしたかったのです。実際、このコロサイ人へ向けた手紙の目的は、そして実際、使徒としてのすべての活動の目的は、すべての人をキリストにおいて成熟させることの実現に向けて、戒め、教えることだったのです。パウロは、キリストにおいて完全に成長した、成熟した弟子たちを作りたかったのです。

Verse 29 says, *“To this end I **strenuously contend** with all the energy Christ so powerfully works in me.”*

29節には、「このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。」と書かれています。

Paul's work was empowered by God's mighty strength. He was infused with Christ's energy. But God's strength in Paul's life didn't mean that he did nothing. He worked hard according to His working. The word **'contend'** [striving], whose root can mean *'to compete in the games'*, carries the idea of athletic contest: Paul does not go about his work half-heartedly. He gave his **all** for the cause of Christ.

パウロの働きは、神の大きな力によって支援されていました。パウロはキリストのエネルギーを受け取っていたのです。しかし、いくらパウロの人生に神の力があつたからと言っても、もちろんパウロが何もしなかったということではありません。彼は、神に従って懸命に働いたのです。「奮闘する」(striving)という言葉は、その語源が「競技に出場する」という意味もあり、「奮闘する」という言葉には運動競技の観念が含まれています。パウロは自分の仕事を中途半端にはしませんでした。彼はキリストの目的のために自分のすべてを捧げたのです。

Conclusion/Application

To conclude today's message and to apply these truths into our lives, I'd like to ask you some soul-searching questions:

今日のメッセージの締めくくりとして、これらの真理を私たちの人生に活かすために、次のような、核心をついた質問を試みたいと思います。

- Are we concerned about whether or not our brethren and others are being presented "**mature in Christ**"?
- Are we willing to invest the effort, the resources and the emotion necessary to reach this goal?
- 私たちは、兄弟姉妹や他の人々が「キリストにおいて成熟した者」となっているかどうかを考慮しているでしょうか？
- 私たちは、「キリストにおいて成熟する」という目標に到達するために必要な努力、資源、感情を惜しんでいないでしょうか？

If so, consider ourselves as Paul viewed himself. We are servants and stewards of Christ's gospel. Moreover, consider our suffering for our brethren a great privilege and source of joy.

もしそうなら、パウロが自分自身を、福音を託された者を見たように、私たち自身はどうだろうかと考えてみてください。私たちがまた、キリストの福音に仕える者であり、福音を託された者なのです。さらに、兄弟たちのために苦難を受けることは、私たちの大きな特権でもあり、喜びの源であると考えてください。

Let's think on these things, and consider what we can be doing to "***present every man mature in Christ Jesus***".

これらのことを踏まえ、「すべての人を、キリストにある成人として立たせる」ために、私たちができることは何かということを考えてみましょう。